

一票で変える女たちの会

かわらばん

第 53 号 2023 年 12 月 16 日



武力攻撃事態に備えて「全島避難」説明会 沖縄南西諸島で起こっていること……坂元良江
沖縄を戦場にはさせない！ 決めるのは主権者の私達……伊東秀子
コスタリカを学ぼう……高原伸夫
BOOK 『射精責任』を読んで「射精と犯罪」について考えた……伊藤充子
CINEMA 『理想郷』のおすすめ……丹羽雅代
短信：一票で変える女たちの会 F B から

*記事中の URL、一部の写真は、出典サイトとリンクされています。クリックするとリンク先が開きます。

武力攻撃事態に備えて「全島避難」説明会

沖縄南西諸島で起こっていること

坂元良江

昭和二〇年三月末、国民学校一

年生を終えたばかりの私は、母と幼い妹弟と五人で新宿から汽車に乗って疎開の旅に出た。父は戦地、目指す長野県には待っている親戚一人いない疎開だった。三月一日の東京大空襲を見た母は、叔父の勤め先の縁をたよって知らない町への疎開を決めたのだった。親戚のある鹿児島県は、沖縄の次の本土決戦の地ということで疎開禁止地域となっていた。

妹は三歳と二歳、弟は一歳になったばかりの年子三人と七歳の私、途中乗り換えもあり九時間の長旅、汽車は混んでいて身動きも出来ない。「おしっこ」と言う妹を母は窓からおしっこさせていたし、私が脱いでいた革靴は盗まれてしまうし、大変な旅だった。東京の家は焼かれ、父は戦地から帰らず、私たち家族はそれから長く

疎開先に住んだ。

B29の激しい空襲とそれを逃れての疎開の日のことを私は決して忘れないし、父を失ったその後の苦しかった生活を思うと今も涙ぐんでしまう。しかし、私は夫も息子も戦地に送ることはなかった。戦争をしないと決めた平和憲法が守ってくれたのだ。今大学生の孫息子が一八歳になった時、地方自治体は彼らの名簿を本人の知らないうちに自衛隊に渡している。全国の多くの地方自治体が行っていることなのだ。自衛隊員の応募が少なくなれば必ず利用されるだろう。「徴兵への一里塚」ではと一抹の不安を感じている。

そんな折、まさに「新たな戦前」を実感する、びっくりするニュースが飛び込んできた。「標的の村」「沖縄スパイ戦史」など沖縄の映

面を沢山撮っている三上智恵さんのフェイスブックを読んだのだ。

沖縄の南西諸島、与那国、石垣、宮古の三島は全島、武力攻撃事態に備えて「避難地域」となっているというのだ。すでに数回の島外避難の説明会が行われている。全島民は空路と船で九州に避難する。荷物はリュック一つまで、家、財産、暮らしの手段全部を捨てての疎開だ。帰島した時に破壊されていた家や牧場は国が直してくれるわけではないことも説明されたという。

武力攻撃が発生した事態、危険が切迫していると認められた事態で住民は県外避難となる。ネット上にも公開されている「避難実施要項」によればすでに隣組も出来上がっており、島民はくまなく管理されている。国民保護法第六一条による措置だそう。航空機で福岡空港に到着した島民たちは博多駅から新幹線を使ってそれぞれの滞在先に向かうのだという。滞在先の詳細は示されていない。博多駅にあふれた避難民の大群を想像するだにおぞましい。



三上智恵監督 最新作「戦雲 -いくさふむ-」
2024年3月16日（土）ポレポレ東中野ほか全国順次公開予定。

ここ数年の間に沖縄の南西諸島にはほとんど自衛隊の基地が作られ戦車が行き交い、PAC3、ミサイルが持ち込まれている。基地があれば攻撃の危険にさらされる。「アメリカの戦争」に「参加することが出来る」ようになった自衛隊の基地はそのまま戦火に巻き込まれるのだ。

「やがて戦争になりそうだから町ごと避難する説明会が開催され、重苦しい空気に包まれている地域がこの国にあるのだという事を全国の人たちに知って欲しい」と三上智恵監督は言う。

戦火を逃れての「疎開」など再びあつてはならない。

沖縄を戦場にはさせない！
決めるのは主権者の私達

伊東秀子

（北海道九条連共同代表・弁護士）

1. はじめに

去る一月二三日、北海道九条連の方々と共に沖縄県民平和大会に参加しました。「沖縄を戦場にはさせない！決めるのは主権者の私達」という決意表明の下、集会は若者たちによる唄三線・エイサーなど音楽と太鼓で始まり、参加者は老若男女・子供連れの家族など一万人を超え、世代を超えて県民の想いが一つになった大会でした。

三時間という長い時間があっという間に過ぎ、沖縄・琉球列島各地のリアルな報告に目も耳も釘付けになり、参加者全員が一体となった連帯感の感動がジーンと胸に迫ってきました。岸田政権が推し進めている防衛政策は、「日米安保条約下の日本の隷属的地位をさらに一層押し進め再び日本に戦

争の惨禍を齎す^{もたら}」ことを強く肝に銘じさせてくれた集会でした。

以下、沖縄各地の報告と配布された資料を基に、沖縄と琉球列島の「戦争前夜」の現状を報告し、安倍・菅・岸田政権によりここに至った経緯を明らかにしたいと思います。

2. 「専守防衛」が反故にされていった経緯

安倍政権は二〇一五年に集団的自衛権の行使を可能とした安保法制を強行採決し、六年計画で南西諸島に陸上自衛隊のミサイル基地の建設を始め、地対空ミサイル部隊等一九の部隊を配備し、その後の菅政権は「土地規制法」を制定して、沖縄の五〇の有人離島の港湾や航空施設を米軍が軍事使用できる体制を作ったのです。

これを受けた岸田政権は、二〇二二年一二月防衛力整備計画などの「安保三文書」を閣議決定し、「五年間に四三兆円防衛費を増大する」と表明して、日本が戦後厳守してきた「専守防衛」の憲法上の原則を葬って、国会の論議

も経ず、国民の意思を問うことなしに、日本を「米国のために代理戦争をする国」にしたのです。

3. 「安保三文書」上の日本の従属的地位

岸田政権は、日本が武力攻撃を受けてもいない状況下で、自衛隊が他国の戦争に参加する道を開いたのです。そのために、沖縄では連日大々的な自衛隊と米軍の合同軍事演習が行われ、与那国・宮古島・石垣島など琉球列島の自衛隊基地では、「台湾有事」を想定した莫大な予算による施設の拡充と整備が進み、長距離射程ミサイル・空母・トマホーク等が配備され、前年比三倍増の弾薬が備蓄されるなど、戦争準備が着々と進行している状況です。

さらに、岸田総理が現実的シミュレーションに基づいて策定したという「安保三文書」の中の一つの「防衛力整備計画」には、「米中間の戦争では中国が米軍より有利である」ことを認めた上で、『「台湾有事」となった場合、自衛隊は米軍に先んじて米中間の戦闘に加

わり、中国のミサイル攻撃に耐えつつ米軍の来援までの時間稼ぎに注力し、米軍が長期戦を闘い抜く意思を喪失しないよう、日米両軍の一体感の維持に努力する」旨が記載されています。台湾有事の際、自衛隊を米中間の戦争の主軸として闘わせる構想なのです。ところが、戦況が不利な状況に傾き抑止が破られて敵国が日本を侵攻した場合での米国の戦略は、「五万人を超える在日米軍の内ごく少数の部隊を残留させ、大多数の米軍をグアムより以東に退避させ、米空母などと連携して遠方から島々を転進し移動させる」というもので、既に硫黄島や伊江島で米軍の退避訓練が繰り返されているということです。つまり、米国の戦略は、「米中間の戦争では自衛隊を先行的に戦争に加担させ、戦況が不利になった場合には日本の自衛隊を守ることなく、在日米軍を中国のミサイルの射程距離外の安全な地に撤退させる」という構想なのです。

4. 「台湾有事」において在日米軍が撤退する根拠

参議院の外交防衛委員会において、上記米国の戦略構想について、浜田防衛大臣は次のとおり答弁しています。「国家防衛戦略においては、万が一抑止が破れて我が国への侵攻が生じた場合、我が国が主たる責任を持つて対処し、これを阻止・排除することは（日米ガイドラインに）明記しているところであります」と答弁し、「台湾有事」の際に米軍の来援がない状態で自衛隊が危機に陥った場合、二〇一五年の「日米ガイドライン」により米軍には自衛隊を守る義務がないことを、政権自体がはっきりと認めています。このように、米国の対中国の戦争戦略は、自衛隊を先行的に東シナ海での戦争に従事させるものであり、米国の意向を受けて岸田政権が策定した「安保三文書」での戦略も、自衛隊を米国の代理戦争の主軸として闘わせ、戦況が窮地になれば米軍は自衛隊を見捨て撤退することを前提にしている戦略構想なのです。日本人の莫大な血税で購入する「敵基地攻撃能力」のあるミサイル等も、自衛隊がアメリカの

代理戦争を遂行するための手段として、岸田政権が日本の国民に防衛費の倍増の負担を強いるものです。

5. さいごに

以上のとおり、岸田政権は、日本国憲法に基づく対話と外交による平和への道をかなぐり捨て、「台湾有事」の際自衛隊を中国との戦争の主軸として戦わせるために、「専守防衛」の憲法原則をかなぐり捨てました。私たちは、今こそ、この理不尽で米国に隷従した同盟関係を早期に断ち切り、対話と外交による平和を維持・回復するために、沖縄と連帯して粘り強く闘い続けねばならない！
そうした決意を新たにしてくれた沖縄の平和大集会でした。



コスタリカを学ぼう

高原伸夫

「九条の会」世話人の伊藤千尋さんが、最近『コスタリカ』を出版された（高文研出版）。一〇冊ほどフェイスブック経由で伊藤さんに注文してサイン入りを頂いた。コスタリカという国には以前から惹かれていた。人口五〇〇万人の小国がサッカーのワールドカップでも強かったが、友人でIBMで働いていた婦人が三年間コスタリカに住んでいたのと、息子さんのパートナーがコスタリカ人女性だと聴いてから、より関心が深まった。

伊藤さんによると、毎年必ずコスタリカに飛んで、現地の様子を見てくるといふ。今の時代この地球上に、この非武装平和国家が存在すること自体が、殆ど奇跡に近いようだ。二〇一七年に『コスタリカの奇跡〜積極的平和国家のつくり方』という米国人監督による

映画が上映されて評判になったらしいが、見損なってしまった。そして現在は、マスメディアでも活動家からも、コスタリカの話を聴く機会は殆どない。積極的に話題にしようという意識が希薄らしい。

それで考えたのが、日本の進路を考えてゆく上で、コスタリカを深く学ぼうではないかという提案である。

この本には「純粋な人生」と、言いあう平和・環境・人権の先進国」というサブタイトルが付いている。構成は「第一章 平和、民主主義、人権大国」「第二章 人間にも自然にも優しい環境と社会」と続く。とても刺激に富んで勇気が湧いてくる。実際に平和国家をつくる、そのプロセスが詳細に書かれている。私たちの平和への歩み方にも、多くのヒントが与えられる。国会議員の半数は女性。民主主義の項では「参加」「多様性」「寛容性」「対話」「連帯」の五枚のカードで小学生から教育されている。平和の輸出に積極的で国連で核兵器禁止条約を主導し、中南

米に平和をもたらす原動力ともなってきた。

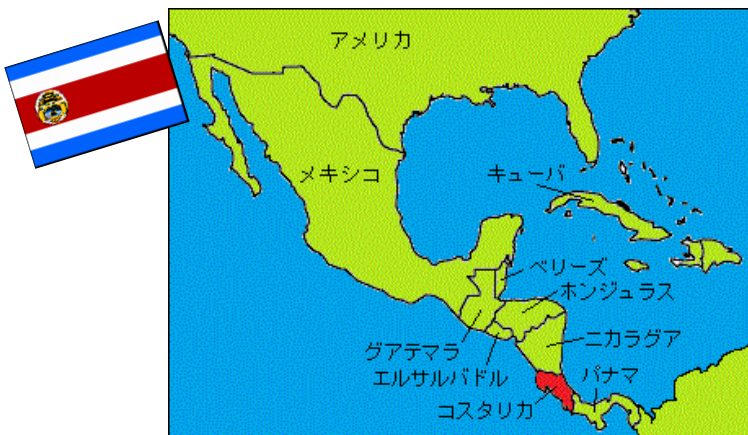
「平和を考えると、日本ではすぐに国家や世界の平和を頭に浮かべがちだ。まるで自分が首相になったように国家管理を考える。コスタリカはまったく違う。平和の出发点が個人だ。自分との平和、他人との平和、自然との平和、三つの平和を幼稚園のときから教える」。この発想で、伊藤さんは一人一人のコスタリカ人 toward き合い、話をして考えを聴いている。

軍隊を廃止し平和国家へ転換したときに、国家予算の三〇%を占めていた軍事費をそのまま教育費にあてた。それまでの教育費は医療と福祉の費用に回され、その結果、北欧並みの教育・福祉国家へと成長した、とある。我々も軍国化をひた走る現政権を嘆いてばかりではいけない。

今年二カ月間コスタリカを訪れた、桑江優稀乃さんという沖縄の若手ミュージシャンも現地の人と話をして、「軍隊無くして平和を守り続けていることが希望であり

誇りと教育されている。沖縄とよく似たところがあつて自然が美しく観光が経済を助けている。軍事費を教育費と医療費にしている。日本とは逆に不安を煽るのではなく、各国と友達だから軍隊がなくとも攻撃されないと信じている」と語っている（沖縄うりずん通信）。

みなさん、コスタリカを学び連帯してゆきませんか。



『射精責任』を読んで 「射精と犯罪」について 考えた

伊藤充子

二〇二三年七月末に発行された『射精責任』（ガブリエル・ブレア著・村井理子訳）は「望まない妊娠の責任は射精する男性にある」という女性にとつては当然の主張を多くのファクトを使つて論じている。胸のすく、痛快な本である。だが、同時に射精ということについていかに男性が快樂優先で無責任かを思い知らされるという意味では暗くなる本でもある。この本をきっかけに射精による犯罪について考えてみた。

「福井県教育委員会は一〇月六日、女兒の帽子に体液をかけたとして、器物損壊の罪で罰金の略式命令を受けた福井県高浜町の小学校教諭（三五）を停職一二月の懲戒処分とした。教諭は同日付で依願退職した。県教委によると、

教諭は七月八日午後三時ごろ、同町内の施設で女兒の帽子に体液をかけて損壊した。小浜署に八月三〇日に逮捕され、その後、敦賀簡裁から罰金一〇万円の略式命令を受けた。（福井新聞 二〇二三年一〇月七日）」（注…この施設とは児童館である）

「電車内で女性のスカートに体液をかけたとして、警視庁池袋署は器物損壊の疑いで、東京都の世田谷区役所職員、斎藤響容疑者（二〇）＝八王子市八木町＝を逮捕した。逮捕容疑は令和三年一月一九日朝、西武池袋線の石神井公園―池袋駅間を走行中の電車内で、一〇代の女性のスカートに体液をかけて損壊したとしている。調べに対し「こぼれただけで、かけようと思つてかけていない」と容疑を否認している。（産経新聞 二〇二三年一〇月一二日）」



『射精責任』
ガブリエラ・ブレア 著
村井理子 訳 太田出版

これらの新聞記事では共通して「体液」と書かれている。体液とは、一般的には「唾液・汗・精液・尿など、体内外に分泌・排泄される様々な液体」（ウィキペディアより）だが、ここにある体液とは明らかに「精液」であろう。

このような女兒・女子・女性が精液をかけられたという事例はSNSでは枚挙にいとまがないほど多くあがっている。上記二件はたまたま報道されたもの、と言つてもいいほどだ。

そのほとんどが通学・通勤の電車の中でスカート、カバン、バッグ、（福井県の児童館のケースでは帽子）に精液をかけられた被害体験である。「トイレで友だちが一緒に泣きながら洗ってくれた」「駅員さんに言つたが笑つて『洗えばいいでしょ』と言われた」「自分が汚れてしまった気がしてショックで学校に行けなかった（＝遅刻した）」「今でも思い出すと悔しさとおどましさと涙が出る」などの声は読むだけで私まで怒りに震えてしまう。

精液をかけたということはプラ

イベートな空間で行われるべき自慰行為を児童館や電車の中で行つたということであり、「精液をかけた」とは「男性器を露出して行つた行為」ということである。よしんば男性器の露出が女性たちの目に入らなかつたとしてもその被害感情が軽減されるわけではない。何という卑劣な行為だろう。痴漢やレイプにおけると同様に女兒・女子・女性には一ミリの非もない。

そしてSNSにおけるこのような女性たちの悲痛な叫びに対する男性たちのコメントが更にひどいことには絶句する。彼らは精液をかけた男性側を擁護するのだが、その主張は一貫して「女の生理とは違つて男は射精をがまんできない」「女の生理と違つて男の射精はコントロールできない」「女の生理と違つて男は射精をしないと苦しい」「男はそもそも射精をするのが自然なのだ」などという理解に苦しむ理論である。コメントを読んでいて気付くのは精液をかけた男性たちにも、擁護する男性たちにも「この行為が犯罪である」という意識が全くないことで

ある。この行為はれっきとした犯罪であり、かけた男性はれっきとした加害者である。擁護する男性たちは法律的には何でもないのであるが、私は共犯者だと言いたい。

「chikan」として世界的に悪名高い痴漢は最近これが犯罪であることが少しずつ知られ始めている（まだまだ不十分だが）が、精液をかける行為については犯罪であるとはほぼ認識されていない。そもそもこの卑劣な行為には名前すらついていない。わざわざとりあげて騒ぎ立てるほどではないと軽視されているからだろう。まさに身体男性の自然な身体行為に過ぎないということか。私たちは、女兒・女子・女性が安心して外に出て自分の生活を営むことができるように、「精液をかけるのは犯罪だ。男たち、止めろ！」と声をあげるべきではないかと思う。まずはこの行為に名前をつけることから始めたい。

またコメントを読んで更に気付くのは彼らが「僕は、私は、俺は」ではなくて「男は」という主語を一貫して用いていることであ

る。「男は」「男は」「男は」の羅列を読んでいると彼らにとつては男のアイデンティティとは射精なのだろうかと思う。射精は妊娠と結びついており、快楽だけを求める射精の先にあるのは望まない妊娠であり、中絶であることは全く考慮されていない。womanを「people who menstruate（生理のある人）」と呼ぶ者たちにならって私もmanを「people who ejaculate（射精する人）」と呼ぶことにしようか。



『理想郷』のおすすめ

丹羽雅代

CINEMA

映画館に行く前に新聞や雑誌の評をいくつか読んだのですが、何とも気が進みませんでした。タイトルに比して、粗野で暴力的、なんだか救いがない感じでした。

でも、この映画がスペインとフランスの共同制作で、欧州作家主義作品と名乗り、一番近い町まで車で三〇分以上かかる、廃村に近いロケ地も散々探し回って、一年以上の下準備をしたとか（実際農地の準備にも半年以上をかけた）、それが東京国際映画祭グランプリや、セザール賞やリュミエール映画祭の最高の賞などをいくつも受賞していることが不思議で、少々体調が良くて元気があるときに行ってきました。

主人公は、アントワヌとオルガというフランス夫婦。都会で

働き続けてきた二人が、期待して終の棲家にと決めたのは、子ども時代にアントワヌがたった一度訪れたスペインの山岳地帯ガリシア地方の本当に小さな村。彼が忘れられないのは、一晩中見続けた、他所では絶対に出会えない星空の美しさでした。

二人が話すのはフランス語、地域で村人が使っているのはガリシア語、共通言語はスペイン語。家もぼろぼろ、空き家ばかりの村に住むのは全部で一〇数軒。そんな状態の深刻さもとわず二人は村に住まいを求め、ささやかな夢を描いて有機農業を始めます。

オルガが町の市場で販売する野菜たちは、一年もするとそのおいしさが評判になっていきます。アントワヌは、近隣の空き家になつていく廃屋に手を入れて、人が住めるようにしたいと、時間を忘れてあれこれ働き続けます。

そんな二人をうつつとおしく思っているのが隣家の兄弟、シャンとロレンソでした。

村中に一軒しかないバーで、兄のシャンはアントワヌにゲーム



監督：ロドリゴ・ソロゴイエ 2022 年
138 分 スペインで実際に起きた事件をベースにした作品。各地で上映中。

の仲間入りを勧めます。気が進まないけれど仲間に入るしかありません。

でも兄弟の態度は全く変わりません。口汚い嫌がらせを発したり、車が不調でどうしたものかと困っている、乗せてやるといいつつドアを開けながら急発進させたり、狭い山道に車を止めて通れないようにしたり、子どもっぽい嫌がらせやいじめの行動をとり続けます。村人たちは皆、見て見ぬふり。暴力的な兄弟を快く思っているわけではありませんが、その人でも目につかないところでそっと手伝ってくれるのが関の山です。

すっかり困り果てたアントワヌは、彼らの行動をポケットに忍ばせたビデオカメラで、隠し撮りし始めます。暴力的な行為を受けるのではないかと恐れたからです。オルガは不安が募り、録画をやめるように言いますが、彼は大丈夫だからと取り合いません。

一方、村の中では風力発電プロジェクトの是非が動き始めます。極貧の村ですから、今では導入賛成派以外はほとんどが村を離れて、あるいは兄弟の暴力的振る舞いにまきこまれたくないと、誰も何も主張をしません。

風力発電を歓迎すれば生じるだ

ろう経済性に注目し賛成する声ばかりの中、夫婦は反対の意思を表明します。もちろん二人にとってここそが終の棲家だという思いがあったのでしょうか。

当然ながら、賛成の先頭に立つ兄弟との敵対関係はどんどん激化していきます。

恐れていた日がやってきます。

初秋の森を愛犬ティタンとともに散歩していたアントワヌが二人に待ち伏せされ、暴力を受けます（そのシーンはありません）。帰宅したのは愛犬だけでした。

オルガは必死になってあらゆるところを探しますが、アントワヌの姿は見つけられません。村の警察に届けても、まともな捜索は全くされません。相手にもされないのです。

オルガは日々の営みをおろそかにしないことを心掛け、でもしっかり捜索を続けます。

オルガを心配して、姪のマリーが訪ねてきます。これから冬が来るというのに動かない彼女に、マリーは都会に戻ろうというのです

が、オルガははつきりとそのつもりは全くと断ります。マリーの不安定さが際立ちます。

アントワヌと一緒にいたはずのティタンは、全く役に立ちません。隣家の弟に餌付けをされたのでしよう、呼ばれると飛び跳ねて行ってしまう。もちろんすぐに帰ってくるのですが。

秋から冬に季節は移っていきます。果てしないように見える森の中で、とうとうオルガは、アントワヌが持っていたビデオカメラを見つけます。すぐに警察に届け、フィルムの確認をしますが、残念ながらカメラは壊れており、期待した証拠は見つかりません。

しかし町の警察は村に任せていた捜索を再開させ、とうとうアントワヌの遺体が発見されます。もちろん兄弟によって殺されたという証拠も何もありません。

しかし彼女は隣家に行き、兄弟の母に「あんたの息子たちは刑務所に行くんだ」と宣言します。

オルガの表情が、本当に素晴らしいものでした。

間違いなく今も彼女は、スペインのガリシア地方に住んでいるでしょう。有機の畑で作物を作り、市場にもつていって得意さんに売って、長い秋から冬を過ごし、日々の暮らしを大事にしながら。

翌日くらいに思い至りました。なぜこの悲惨な映画のタイトルが『理想郷』なのかということが。

元のタイトルは、『野獣たち』だったそうです。

でも、この映画が描き出したかったのは、兄弟や村人たちの暴力性ではありません。よそ者に対するすさまじき排他性でもありません。対立や葛藤はあらゆる悲惨すぎる日々から届きますが、移住の当初や、不安を感じながらも農業に励んだり、廃屋を直すという楽しく生産的な作業に没頭してきたころのオルガは、アントワヌとともにとても素敵でしたが、最後に映し出されたオルガの輝き方それ自体が、タイトルだったのだと納得した次第。

【読者からのおたより】 52号に寄せられた感想です。ご了解を得て掲載します。

●印刷版を届けていただいています。やはりメール版よりずっと読みやすくありがたいことです。今号では、特に仁藤夢乃さんのインタビュー記事で、「Colabo」の活動の様子、かけられている攻撃について、詳しくすることができました。ささやかでもできることをしなければとも思います。(北区在住 77歳)

●かわらばん52号、とくに角田さんによるColaboの創立者、仁藤夢乃さんのインタビューが圧巻でした。昨年、ネットでわずかですがColaboに寄付をしようとしたことがあったのですが、うまくいかずに諦めました。今回は口座に振り込むことができましたので、遅ればせのご寄付をすることができました。彼女の勇気と揺るがない信念に脱帽です。立憲は、内部で重要な争点—原発、憲法、防衛費倍増など—に関して、分裂しているようではお話になりませんね。とにかくこの国の「おっさん政治」を終わらせなくては!! とにかく元気でいましょうね、諦めずに勝つまでは! (道下匡子)

●かわらばんを読ませていただき、とても力強いエッセイの数々に元気をもらいました。10月11日の仁藤さんのツイートを送ります〔「ColaboをパロディにしたAVが販売される」との情報〕。本当にどこまでも悪辣なやつらでしょう。ツイッターで検索すると関連情報がたくさん出てきます。(伊藤充子)

★読者のみなさまへ★

一票で変える女たちの会では、「かわらばん」発行のお知らせや投稿募集、憲法集会などの情報を不定期に配信専用のメーリングリスト(ML: 1votewoman@mio-minmio.sakura.ne.jp)でお届けしています。

しかし、最近このMLが届かないという方が増えてきました。多くの場合、迷惑メールとして処理されてしまうようです。お手数ですが、迷惑メールボックスなどをチェックして、受信箱に戻すか、「迷惑メールではない」をクリックしていただきたく、お願いいたします。

また、会からのMLが不要の方、アドレスの変更や新たな登録を希望される方は、1pyodekaeru@gmail.com までお知らせ下さいますよう、お願いいたします。





短信

一票で変える女たちの会 フェイスブックから

会のFBから抜粋して情報を掲載します。詳しい内容はそれぞれのサイトをご覧ください。太字の見出しまたは写真をクリックするとリンク先に移動します。移動しないとき、印刷版の場合は、見出しなどで検索してください。日付はFB投稿日。

12月13日

「日本は難民を受け入れるといいながら、ほとんど受け入れておらず国際法を守っていない」(サファリさん) 日本

の難民認定率はわずか2%。
国連の難民フォーラム「日本に議長国の資格があるのか」 難民申請中の外国人たちが怒りの会見 12月12日 東京新聞

増え続ける難民の問題を話し合う国連の会合「グローバル難民フォーラム」が13日、スイス・ジュネーブで始まる。会合を前に、難民申請が難航する外国人や有志弁護士らは12日に東京都内で記者会見し、共同議長国を務める日本について「難民認定制度は助けを求める外国人を苦し



めており、議長国の資格があるのか」と疑問を呈し、制度改善の必要性を強調した……

12月13日

とうとう刑事罰に！ セクハラを犯罪と認定した画期的な判決。五ノ井さんの頑張り、見事です。

「人生かけ闘い無駄でなかった」 五ノ井さん、加害者有罪に 共同通信

元陸上自衛官の五ノ井里奈さん(24)への強制わいせつ罪に問われた元上司の男三人を有罪とした福島

地裁判決から一夜明けた一三日、五ノ井さんが東京都千代田区の日本外国特派員協会で記者会見した。「約二年間、人生をかけて闘ってきた。被害の経験は必要なかったが、この闘いは無駄でなかった」と述べた

……



12月7日

一般社団法人 Colabo

【11報告】Colaboとその代表仁藤夢乃に対する深刻な妨害に関する提訴記者会見を行いました。

現在、Colaboと仁藤に対して、SNSやインターネット上での膨大なデマ、誹謗中傷、嫌がらせ等が行われています。実際の活動への害も生じており、10代女性に対して食事や安心できる空間を提供するバスカフェの活動で使用しているバスが切り付けられたり、シェルターの場所を特定しようとするストーカー行為などの被害を受けています。

先日、Colaboとその代表仁藤夢乃に対するネット上の攻撃に関する弁護士団声明を公開しました。

デマや誹謗中傷などの嫌がらせの投稿が膨大になされ、拡散されることによる影響は非常に深刻で、利用者の女性たちが恐怖を感じ、活動の存続が危ぶまれるほどの状況となっているため、この度、提訴することになりました。

本日、これに関する被害実態の報告、被害者の想い、および提訴に関する記者会見を行いました。

『一票で変える女たちの会』かわらばん
★印刷版をご希望の方は左記FAX、メール、ホームページの問合せ欄からご連絡ください。

★投稿大歓迎！

本や映画の紹介、地域での活動報告、選挙や地域の政治の動き、情報、ご意見なんでもお寄せください。

宛先

Email: 1pyodekaeru@gmail.com
郵便: 〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1の1

東京ボランティア・市民活動センター メールボックスNo. 45

FAX: 03-5684-1412

HP: <https://1pyo-de-kaeru.com>

★カンパのお願い

私たちの活動に賛同する皆さん、ぜひカンパを！

郵便振替口座:

記号番号 00110-6-420003

口座名称 一票で変える女たちの会

イッピョウデカエルオンナタチノカイ

銀行等から振り込む場合:

店名(店番) 〇一九(ゼロイチキウ)

店 (019)

預金種目 当座

口座番号 0420003



会見の様子は以下からYoutubeでご覧いただけます。

私たち Colabo は、これからも性暴力や性搾取のない社会に向けて活動を続けます。多くの方に被害の状況を知っていただき、少女と女性の安心安全な空間と関係性を守るために、みなさんにもぜひご協力いただきたいです。どうぞよろしくお願いたします。2022年11月29日

■記者会見動画

Colabo とその代表仁藤夢乃に対する深刻な妨害に関する提訴記者会見
<https://youtu.be/3w4Zh1UI Lf0>

12月6日

イラン女性活動家、電話禁止 平和賞授与前に発信妨害 共同通信

【テヘラン共同】今年のノーベル平和賞授賞が決まったイランの女性人権活動家ナルゲス・モハンマディさん(51)が投獄されている首都テヘランの刑務所で外部との電話と面会を禁止されたことが分かった。モハンマディさんのイン



さんのイン

スタグラムが3日、明らかにした。平和賞授賞式を10日に控え、イラン当局には刑務所からの発信を妨害する狙いがありそうだ。

11月29日

有料記事ですが。

パリ市長がXの利用停止 偽情報増加で「民主主義の大量破壊兵器に」

朝日新聞デジタル

フランスの首都パリのアンヌ・イダルゴ市長は27日、X(旧ツイッター)の利用をやめると表明した。イダルゴ氏はこれまでパリの政策発表や政治的な意見表明などを投稿してきたが、Xが「民主主義の大量破壊兵器になっている」として、近日中にアカウントを閉鎖する考えを示した。イダルゴ氏は2009年3月に旧ツイッターのアカウントを開設……パリの政策などについて、積極的にXを利用してきた。しかし、同日午後「なぜ私はツイッターを去るのか」と題した声明を投稿。現在のXについて「多くの人々による情報へのアクセスを可能にした当初の革新的なツールからはほど遠いものになっている」とした上で、「偽

情報や憎悪の増幅、組織的な嫌がらせや反ユダヤ主義、明らかに人種差別が、善意を持って平和的な議論を望むすべての人々を攻撃している」と指摘した……

11月28日

東京1区市民連合憲法フォーラム。憲法とジェンダー平等の関係について、角田由紀子弁護士の講演があります。12月17日13時半から。オンライン参加できます。

11月28日

東京1区市民連合 第7回憲法フォーラム
12月17日(日)
開場13時 開会13時30分
新宿農協会館8F大会議室
憲法とジェンダー平等の深く強い関係
講師 角田 由紀子 弁護士

change.org

国立大学法人法「改正」案の廃案を求めます

「稼げる大学」への変質を求める大学政策の根本的転換を！
大学の自治に死刑を宣告する
国立大学法人法「改正」案の廃案を求めます

11月24日
映画「移民と私たち」

IMMIGRANTS AND US
移民と私たち

12.20 - 12.28

11月13日

「ガザの事態を憂慮し、即時停戦と人道支援を訴える中東研究者のアピール」研究者、一般市民の賛同を呼びかけています。

「中東のパレスチナ・ガザ地区をめぐる情勢が緊迫、深刻化しています。私たちは、中東の政治や社会、歴史、中東をめぐる国際関係等の理解、解明に携わってきた研究者として、また中東の人々やその文化に関心を持ち、中東の平和を願ってさまざまな交流を続けてきた市民の立場から、暴力の激化と人道的危機の深刻化を深く憂慮し、以下のように訴えます。

- 一、即時停戦、および人質の解放。
- 二、深刻な人道上の危機に瀕しているガザを一刻も早く救済するこ

と。ガザに対する攻撃を停止し、封鎖を解除して、電気・水の供給、食糧・医薬品等の搬入を保証すること。軍事作戦を前提とした市民への移動強制の撤回……

11月13日

こちら特搜部「沖縄の現実」「人生を撮る」 東京新聞11月13日



11月1日

辺野古代執行訴訟 沖縄県知事の意見陳述 (全文)

公開日時 2023年10月31日

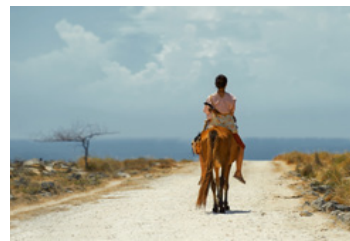
第1回口頭弁論を終え、記者の取材



に应じる玉城デニー知事 30日午後4時6分、県庁 (小川昌宏撮影)

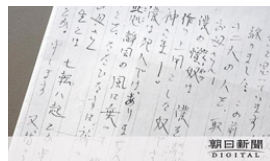
10月27日

第36回東京国際映画祭・黒澤明賞受賞。インドネシア女性監督・闘うヒロイン・痛快なナシゴレン・ウエスタン……と聞けば、観たくなりますね。



インターネット配信あり。インドネシア映画『マルリナの明日』

10月27日



有料記事です。第1回「神さま。僕は犯人ではありませんせん」袴田巖さん、手紙が物語る人生

10月24日

アジアンドキュメンタリーズ

作品名「SAYAMA 見えない手錠をはずすまで」

1963年5月1日に埼玉県狭山市で女子高生が殺害された「狭山事件」で、自白の強要や証拠のねつ造によつて犯人とされ、現在も無実を訴え続けている石川一雄さんと、その



妻の早智子さんに寄り添ったドキュメンタリー。32年間の獄中生活を強いられ、仮出獄から19年間のあわせて50年以上にわたり

10月23日

Jfnet Tokyo @ Facebook か

2023年10月22日(日)、WAM DE CAFEで松井やよりさんを語ってきました。松井さんのお亡くなりになってからもう20年も経つとは月日の経つのは早いものです。JFCネットワークは松井やよりさんのネームバリューで団体の活動を維持してきたと言つても過言ではなかったのですが……

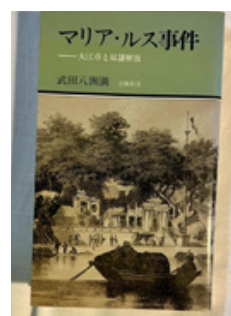
10月19日

原均さんのFacebook か

10月18日 再読断舎離記(56)

武田八州満『マリア・ルス事件』有隣新書1981年。

1872(明治5)年、ペルー船マ



リア・ルス号はマカオから200人以上の中国人奴隷をペルーに運ぶ途中、横浜港に停泊した。神奈川県令(知事)大江卓はこれをとがめ、全員解放した。それは当時の日本の人身売買禁止の法制定のきっかけにもなった。

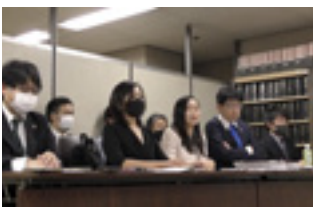
この経緯を描いた本……

10月18日

仁藤夢乃さんのFacebook か

10月16日 本日、暇空茜こと水原氏をColaboが訴えた裁判の期日があり、暇空本人と私の尋問が1月23日に決まりました。

1年以上にわたつて繰り返されるデ



マ拡散・誹謗中傷により甚大な被害の影響が出続けているため、被告がどうしてこういうことをしたのかを開か

れた場で本人の口から聞きたいと思っています。

私も被害の影響等についてお話……

10月16日

障害者の性被害「顔見知り」からの被害が6割以上 当事者へのアンケート調査結果 TBS NEWS DIG

……東京都内で15日に行われた日本社会福祉学会で、法政大学の岩田千亜紀助教は、性暴力の被害を受けた身体障害や発達障害など障害のある人を対象に実施したアンケート調査について……回答者65人のうち、54人が1回以上の性暴力を受けたと回答。加害者との関係を複数回答で尋ねた質問では131件の回答があり、加害者が「親以外の知っている人」と答えた人が6割以上と最も多く、親と答えた人は1割でした……

10月16日

女と政治をつなぐ 10・22

平和を求め軍拡を許さない女たちの会第2回シンポジウム ㊟ 神田

動画が公開されています。

[illegible]